

経営比較分析表（令和5年度決算）

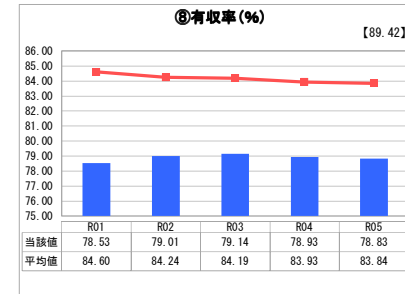
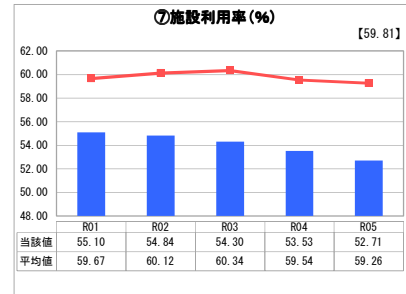
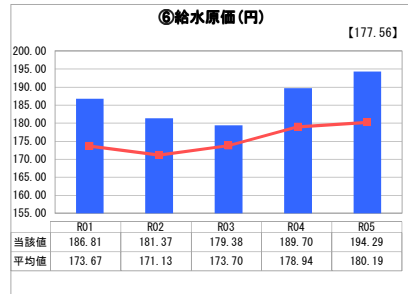
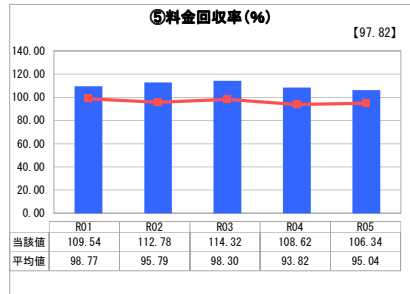
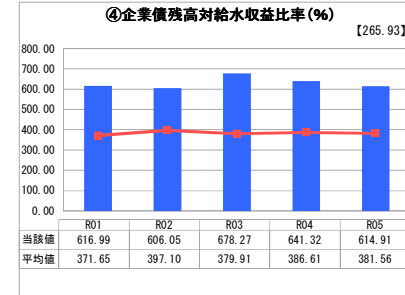
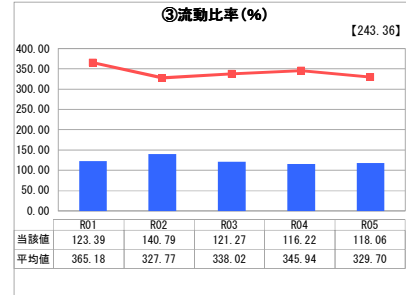
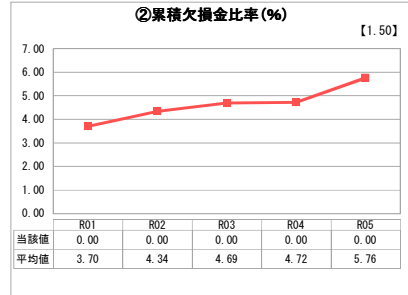
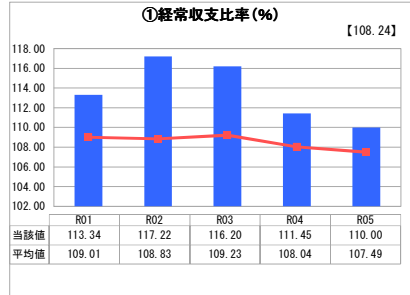
秋田県 能代市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	59.59	84.78	3,685	

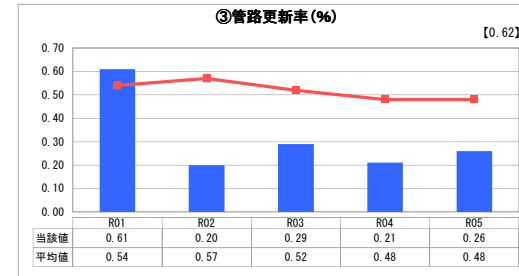
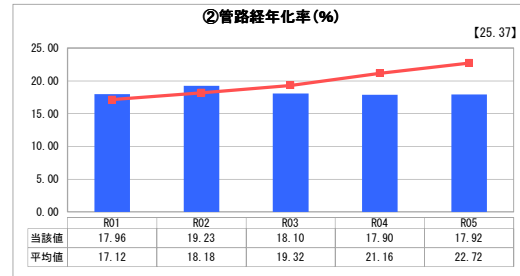
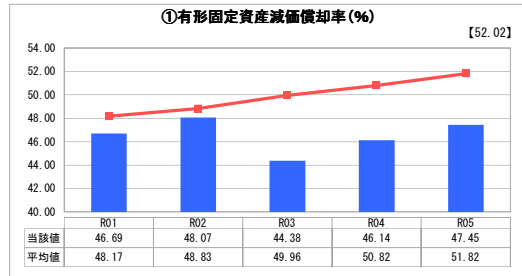
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
48,334	426.95	113.21
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
40,601	123.81	327.93

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、⑤料金回収率がともに100%以上を維持しており②累積欠損金もないことから、事業経営は安定していると言えるが、③流動比率が類似団体平均より低いことから分かるように短期債務に対する現金預金や未収金といった流動資産が少ない状況となっている。大規模な漏水事故や自然災害による被害対応、建設改良事業や拡張事業などへの影響が懸念されるためより効率的な事業運営が求められている。

④企業債残高対給水収益比率については、類似団体平均より上回っているが浄水場整備等の大規模建設改良事業が終了していることから企業債残高は今後、減少していく見込みである。

⑥給水原価については、維持管理費の増加により上昇傾向にある。また⑦施設利用率は、使用水量の減少に伴う配水量の減少により類似団体平均値を下回っている。施設費については、今後の拡張事業に係る配水量や災害時等の水需要も考慮する必要があるが、今後も人口減による給水収益の減少が見込まれるため確かな水需要の把握、適正な施設規模の検討をしていく必要があると考えている。

⑧有収率については、類似団体平均値より低い水準で推移しており、引き続き漏水調査を行いながら、計画的な更新、修繕を続けて行く必要があると考えている。

2. 老朽化の状況について

法定耐用年数を超えた管路が増え続けていくことから、計画的かつ効率的に管路の更新事業を進めていく。

あわせて地下漏水量を抑えるための対策として令和2年度から漏水調査を実施している。

全体総括

今後の経営見通しでは、給水収益の減少や費用の増加に伴い、純利益は減少していくものと考えている。施設整備では老朽管路の更新等を実施しており、今後も引き続き事業費の平準化を図りながら経営状態を考慮した事業規模を検討していく。